

議 長 日程第5「一般質問」に入ります。

一般質問は通告順に行います。受付番号第1号、利根川茂君の一般質問を許します。登壇願います。

4 番 利 根 川 不妊治療に対する助成を！

要旨 質問書のとおり

町 長 それでは、利根川議員の御質問にお答えをさせていただきます。先ほど気を遣っていただきましたので、端的に回答をさせていただきたいというふうに思います。

今回の利根川議員の御質問はですね、昨年度より、昨年4月ぐらいから私自身も検討してまいりました。それで、どこのタイミングでそれを打ち出そうかというところございまして、実質今回27年度のほうの予算には組むことができず、いまだ検討中でございます。調べるところによりますと、近隣では開成町等がですね、やっております。先ほど御説明にありました、県のほうでも、もともとのあるプラスアルファということでやっております。この松田町も、その辺に関しましてはですね、やっていかなきゃいけないというふうに考えておりますので、今回はこの27年度の予算には組めてませんけども、我々の研究が、ある程度段階を踏んだ、しかるべきときにですね、27年度中に、もし御提案できることができれば、補正予算を組んででもやりたいというふうに考えておりますので、御了解いただければと思います。以上です。

4 番 利 根 川 非常に端的な御答弁、ありがとうございます。何か27年度中にでもですね、やりたいということでございますけども、これ、やらせの質問じゃございませんので、私は私なりに研究をしてですね、質問をしております。何か事前に相談があつて、町長と利根川が陰でこうやってるんじゃないかなと、そんなことは決してございません。子育て支援政策、大変結構でございます。我が町も機構改革によって子育て健康課なんかを配置してやるということは、子育て支援策というのは生まれてからのことばかりが目に入りますね。いわゆる松田町も、歴代町長あるいは諸先輩の議員の御努力によってですね、子育て支援策というのは大分進んでおります。例えば、さっき町長がお話が

ありました、中学生までの医療助成とかですね、給食の完全実施、中学生まで。これは、小田原の周辺だけです、中学3年まで給食を完全実施してるの。横浜・川崎・相模原のほうへ行くと、図体がでかいだけでですね、中学行くとお弁当持って行くと、パンを買って行くというような形で、大分おくれますね。また、ことしから水道料の軽減もおやりになる。平成14年から、子育て支援センター、ファミリーサポートセンターも開設をして、生まれた以降のことについてはですね、十分な施策がなされていてですね、今後も推進していただければ結構だと思いますけれども、子供の生まれる率がだんだんだんだん少なくなってきました。1944年、昭和19年、我々が生まれたころですけども、1人の女性が産む数が4.9人、産まない人もいましたけど、4.9人いたわけですね。ですから、我々の兄弟は、我々の世代は5人、6人、兄弟がいるのが当然だったわけですけども、1966年の昭和41年、ひのえうまというのがありまして、女の子は生まれると、あと将来どうのこうのという話がありました。あそこで、特殊事情出産率が1.56まで落ちまして、それ以降どんどんどん出生率が落ちて、1.27まで落ちて、去年はちょっと持ち直して1.43ぐらいまでいったそうでございますけれども。

日本の人口はですね、平成19年に3万人減ってですね、一昨年の平成13年、1年間25万人減ってるわけですね。25万人というと、神奈川県で言うと平塚市ですね。平塚市の人口がそのまま日本全国からいなくなってしまうと。我が町も2,000人も減ってしまったわけですけども、人口が減るということは、行政にとっては社会保険料や税金が減るということ。企業にとっては購買力が減るということですね。我々議員にとっては何かというと票が減るということです。ですから、全員が減っていくわけですね。

人口置換水準というのがあります。ちょっとこれアカデミックになりますけども、人口置換水準。置換の「置」は置くという字ですね、「換」は交換の換。いわゆる、何人女性が子供を産んでいけば、今の社会保障の体制が守られていくかという人口置換水準というのがあるわけですけども。これは、1人の女性が、平均ですね、2.07人以上産まないとい今の社会保障の体制は保てない。これ人口置換水準といいます。現在は1.43までやっと持ち直したわ

けでございますけれども、私のところにですね、大分、その不妊で悩んでる方のいろんな相談がございます。不妊というのはですね、なかなか表に出ない、出せない、相談もできないというような経過がございますけれども、担当課長にお伺いしますけれども、今まで本町において、いわゆる不妊でどの程度の方が悩んでるかという状況を把握してるのでしょうか。以上、お答えいただきたいと。

子育て健康課長 手元の資料によりますと、平成24年度、神奈川県の特定不妊治療助成事業に申請された松田町の住民の方は2件、延べ4回分ですね、助成を受けております。25年度につきましては、3件、延べ7回の助成を受けております。実際にですね、こうやって申請をされてる方、2名、3名と載っておりますが、同じ方が継続してる場合もございますので、はっきりとした人数はちょっと把握してございません。

4 番 利 根 川 結構でございます。政治とか行政というのは、何が基本であるかというところ、日の当たらないところに日を当てる、これが政治や行政の基本だと思います。さっき町長のほうから前向きな答弁をいただきましたけれども、本町においてはですね、できるだけこの検討をされてですね、この不妊治療に対する助成制度の確立を前向きに捉えていただきたい、かように考えております。来年の…私もしつこいですから、来年の3月議会でも、この1年間検討した結果をお伺いしたいと思います。ただしですね、9月に改選がございますので、席をいただけない場合は、私が質問することができません。ですから、担当課を中心にですね、利根川さんの動向を見て当選したら10月から検討するべえよというような形ではなくですね、4月の新年度以降、せっかく子育て健康課ということで、子育てと健康水準を高めるという課、担当課ができたわけでございますので、早速4月から、これらの子育て支援を含めてですね、不妊治療に対する助成制度をどうするか、ひとつ方針を検討していただきたい。そして、前向きな答弁を、できれば中間報告でも結構ですから、9月までの議会に町長のほうから、全協あたりでも結構ですから、御報告願えれば幸いですというふう考えております。

あと20分もありますけれども、私も議会運営委員長という立場にございま

すので、常に議事の進行について頭がいっぱいでございますので、この辺で質問を終わりにしたいと思います。答弁は結構でございます。次の方が待ってられると思いますので、次の人に一般質問の時間をお譲りしたいと思います。ありがとうございました。

議

長 以上で受付番号第1号、利根川茂君の一般質問を終わります。

暫時休憩いたします。10時20分より再開いたします。 (10時07分)